

The Economic Development of Two Villages in Shandong Province during the Second Sino-Japanese War: The Case of Nanquanfuzhuang in Jinan City and Zuoshanzhuang in Anqiu County

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Benno, Saiichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058188

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



日中全面戦争時期における山東省 2 ヶ村の経済発展に関する分析 — 済南市南権府荘と安邱県岙山荘を例として —

弁納才一^{1*}

2019年9月30日受付, Received 30 September 2019
2019年12月17日受理, Accepted 17 December 2019

The Economic Development of Two Villages in Shandong Province during the Second Sino-Japanese War: The Case of Nanquanfuzhuang in Jinan City and Zuoshanzhuang in Anqiu County

Saiichi BENNO^{1*}

Abstract

The purpose of this study is to analyze the economic development of two villages in Shandong Province during the Second Sino-Japanese War by comparing the villages in question. Nanquanfuzhuang was a suburban village, while Zuoshanzhuang was in the hinterland. During the time period in question, the opportunity to work outside of agriculture was expanding in Nanquanfuzhuang whereas economic growth in Zuoshanzhuang was very slow although not completely moribund. In both villages, labor force movements beyond the village boundaries were observed. However, the collective use of draft (working) animals was practiced only in Zuoshanzhuang.

Key Words: draft animal, Modern China, mortgage, rural economy, tenancy
キーワード: 近代中国, 農村経済, 小作, 典, 役畜

I. はじめに

筆者は、すでに中華民国期中国とりわけ華北における農村経済について分析し、都市近郊農村では経済が発展すると、零細農化・脱農化と都市化の進行に伴ってベッドタウン化が進行したことを明らかにしてきた(弁納, 2013, 2014a, 2014b, 2015a, 2015b, 2016)。また、同時期の山東省内における3ヶ村(都市や県城に近い順に青島市西韓哥荘, 惠民県孫家廟荘, 濰県高家楼村)についても分析し、零細農化・脱農化も同様の順に進行していたことを明らかにし

た(弁納, 2018, 2019)。

ところで、日中全面戦争時期に日本軍占領下の山東省農村のうち、済南市南権府荘(総戸数222戸)^(史料1, p.14)と安邱県安太鎮岙山荘(総戸数478戸)^(史料2, 凡例)の2ヶ村は、日本軍が模範愛護村に指定し、華北交通株式会社がほぼ同様の調査項目や分析手法によって調査を実施して調査報告書を刊行した。そもそも、南権府荘が済南市から2.5 kmの近郊農村だったのに対して^(史料1, p.1)、岙山荘は岙山駅から1 kmの地にありながらも安邱県城からはやや離れた周辺農村だったことから^(史料2, p.31)、両村は農村経済発展の

¹金沢大学人間社会研究域経済学経営学系 〒920-1192 石川県金沢市角間町 (Faculty of Economics and Management, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University, Kakuma-machi, Kanazawa, 920-1192 Japan)

*連絡著者 (Author for correspondence)

程度や段階には明確な差異があると考えられる。

そこで、本稿では、経済発展において対極に位置していた当該2ヶ村の差異について分析したい。ただし、当該2ヶ村における「1畝」の実際の面積が前稿で取り上げた山東省惠民県孫家廟荘の約2.6倍だったことから、当該2ヶ村の面積を孫家廟荘のそれに揃えて修正し、孫家廟荘などの3ヶ村とも比較したい。なお、本稿では、主に煩雑さを避けるために、原則として文献資料からの引用部分をも含めて常用漢字と算用数字を用い、また、小数点第2位以下を切り捨てることにした。

Ⅱ. 南権府荘

1) 概況

南権府荘の人口は1,047人で、「1戸当人口は4.7人となり、北支農村の平均1戸当人口より稍少」なく（史料1, p.21）、また、1938年に「多少とも農業を経営せる戸数は222戸中118戸（約53%）」で、「全然農業を経営しない戸数が104戸（約47%）」（史料1, p.15）に達し、脱農化がかなり進行していた。なお、調査が実施された1939年9月現在（史料1, p.1）、本村に居住する234戸のうち12戸は1939年正月以降に本村に移住しており、当該調査は1938年を対象としていた（史料1, p.14）1）。

本「部落内耕地にして部落外地主の所有になるもの56.1畝あるが其の内45.9畝は済南城内に居住する不在地主、7畝は天津に居住する不在地主（所謂不在地主と称するものではなく、元当部落居住者にして済南市又は天津市に移住し当部落に多少の土地を所有する程度のもので大部分である）」の「所有になるもので近隣部落の地主の所有になるものは僅に3.2畝に過ぎない。之に対し部落民の部落外に所有する耕地は集計結果に依れば56.5畝であるが、その大部

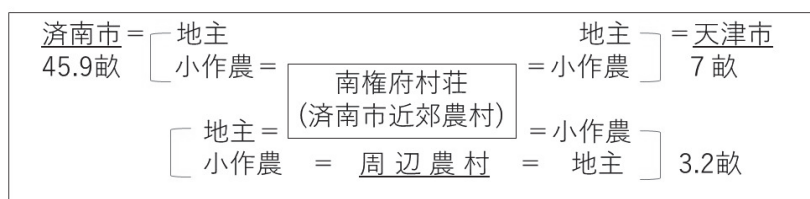
分の耕地は元当部落内の耕地」だったが、「他部落との境界付近に存在する耕地を他部落の者に販売した場合には其の土地は其の購入者の居住する部落のもの」と認められた（史料1, p.1-2）。

このように、本村内に居住する地主が本村外に所有する小作地は計56.5畝だったのに対して、本村外に居住する地主が本村内に所有する小作地は計56.1畝だったことから、これを差し引きすると、0.4畝の土地所有権が本村外から本村へ流入したことになり

（図1）、都市部（済南市・天津市）・都市近郊農村（南権府荘）・本村周辺農村の間には明らかに土地所有権に係わる三層的構造が形成されていたことがわかる。

また、本村内における6.6畝の入典地（資金供与に際して抵当権を設定した土地）と4.9畝の出典地（資金借入に際して抵当権を設定された土地）を除くと、入典地面積が済南城内からの11.5畝と本村周辺農村からの2畝の計13.5畝だったのに対して、出典地面積は済南城内への10.7畝と本村の周辺農村への5.5畝の計16.2畝だった。このことから、出典地面積が入典地面積を2.7畝上回っており、本村では土地の「典」関係については若干ながら出超状態にあった（図2）。すなわち、本村における「典」の関係は済南城内に対して若干の入超状態となっていたのに対して、本村の周辺農村に対して若干の出超状態となっていた。このように、本村内と本村外との間における「典」に関わる土地関係の移動はそれほど多くはなかったが、済南城内・都市近郊農村（本村）・本村周辺農村の間には明らかに土地に対する抵当権に係わる三層的構造が形成されていたことがわかる。

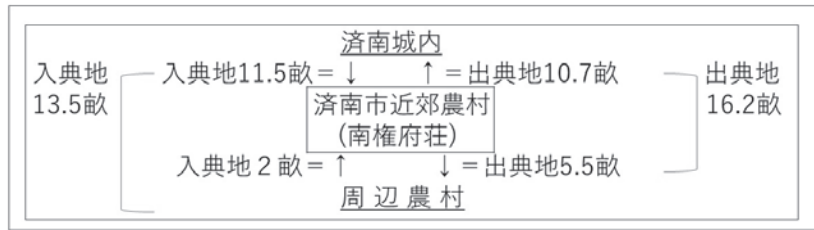
ところが、同じ資料でも入典地面積については差異が見られる。すなわち、表1-1を見てみると、入典地（39.2畝）は11戸（1戸当たり平均3.56畝）において見られるが、このうち3戸（1戸当たり平均4.33畝）



典拠) 華北交通株式会社総裁室資業局『鐵路愛護村実態調査報告書 膠濟線黄台愛護区 (済南市近郊) 南権府荘』(1940) 55~61より作成。

図1 城内（済南市・天津市）・都市近郊農村（南権府荘）・周辺農村の小作地関係。

Fig. 1 The relation of land tenancy concerning Nanquanfuzhuang.



典拋) 前掲書『鐵路愛護村実態調査報告書 膠濟線黄台愛護区(済南市近郊)南権府荘』50~52より作成。

図2 城内(済南市)・近郊農村(南権府荘)・周辺農村における「典」の関係。

Fig. 2 The relation of land mortgage concerning Nanquanfuzhuang.

表1-1 南権府荘における入典地の状況。

Table 1-1 Land mortgage in Nanquanfuzhuang.

農家番号	経営面積(所有面積)	経営形態	家族人数(労働力数)	農業労働者数		作付面積(畝)					備考
				雇傭	被雇傭	小麦	早粟	晩粟	芥菜	豆類	
4	15.6(6.5)	小自	9(5)			10.4	3.9	7.8	2.6		入典地1.3畝
52	13(13)	自	10(7)			11.9		11.9			入典地5.2畝
50	7.8(7.8)	自	3(3)								苦力, 入典地7.8畝
20	3.1(3.1)	自	3(3)		日工	3.1		3.1			会社員, 入典地3.1畝
15	2.6(7.8)	地自	6(2)	日工		2.6				2.6	雑貨商, 入典貸出地5.2畝
26	2.6(2.6)	自	10(5)		日工	2.6		2.6			会社員, 入典地2.6畝
41	2.6(2.6)	自	7(4)		日工	2.6		2.6			雇農, 入典地2.6畝
43	2.3(2.3)	自	2(2)			2.3		2.3			苦力, 入典地2.3畝
37	1.3(1.3)	自	5(3)			1.3		1.3			豆腐行商, 入典地1.3畝
177	1.3(3.9)	地自	3(2)			1.3		1.3			煙草行商, 入典貸出地2.6畝
98	0(5.2)	地	5(4)		月工2人						雇農, 入典貸出地5.2畝

典拋) 『鐵路愛護村実態調査報告書 膠濟線黄台愛護区(済南市近郊)南権府荘』附表より作成。なお、経営形態のうち、「小自」は小自作農(小作地面積が自作地面積の同数以上の農家)、「自小」は自小自作農(自作地面積が小作地面積の同数以上の農家)、「自」は自作農、「自地」は自作農兼地主(所有面積が経営面積の2倍未満の農家)、「地自」は地主兼自作農(所有面積が経営面積の2倍以上の農家)、「地」は地主を表している。また、16~60歳の者を労働力数と見なした。

が入典貸出地としていた。また、所有地の7.8畝のうち入典地の5.2畝を貸出している農家番号15は雑貨商を兼ね、また、所有地の5.2畝を全て貸出している農家番号98は月工で、さらに、所有地3.9畝のうち入典地の2.6畝を貸出している農家番号177(1.3畝に小麦・晩粟を作付)は煙草の行商を兼ねている以外に、所有地の3.1畝・2.6畝をそれぞれ入典地としている農家番号20・26はともに会社員として勤務しており、脱農化が進行していると言える。一方、入典地面積(カッコ内は経営面積・所有面積)は、10.1~20畝層では小自作農である農家番号4の1.3畝(15.6畝・6.5畝)と自作農である農家番号52の5.2畝(13畝・13畝)があり、5.1~10畝層では農家番号50の7.8畝(7.8畝・

7.8畝)には統計資料に農作物別の作付面積の記載がないことから、実際は貸出地だったと考えられ、5畝以下層では自作農である農家番号20・26・41・43・37の3.1畝・2.6畝・2.6畝・2.3畝・1.3畝、地主兼自作農である農家番号15の5.2畝(2.6畝・7.8畝)と農家番号177の2.6畝(1.3畝・3.9畝)の計14.8畝もの入典地があった。

本村から流出する労働力の「大部分は済南城内及商埠地と農事試験場に供給せられ、付近部落への労力の供給は極めて少」なく、また、「農繁期に労力が不足する場合には其の大部分は済南城外にある農工市を通じて求められてゐるので近隣部落相互間に於ける労力の依存関係も比較的少」なかった。さらに、

本村の「農産品中売却に仕向けらるゝものは殆ど蔬菜のみにして其の大部分は済南市に仕向けらるゝか或は仲買者に畑売りせられる。主食糧は年々莫大なる量（総受入量の約55.6%）を購入しつゝあるがその大部分は大辛荘の定期集市に於て購入せられ、日用品は主として済南市に依存し、「近隣部落との経済的依存関係は極めて薄」かったとされている（史料1, p.2）。

以上、本村では経済的には「済南市に依存することに依り純農村としての性格を喪失するに至り都市近郊に於ける特殊な部落としての相貌を呈するに至った」とされていた（史料1, p.14）。

2) 統計資料から見た経済状況

表1-2～6を見てみると、総戸数222戸のうち非農家が104戸（46.8%）に達し、脱農化率がかなり高かった。だが、非農家104戸のうち雇農（被雇農農業労働者）は年工が5戸5人、月工が4戸5人、日工が33戸41人の計42戸51人にも達していたが、この42戸の雇農を除くと、脱農化率は27.9%に低下し、しかも、農業外就労者のみの家は47戸で、狭義の脱農化率は21.1%だった。また、農業と全く関係していない家は1戸もなかったが、13畝の土地を所有する地主の農家番号174（表1-2）は会社員で、農業には従事していなかった。そして、本村における1戸当たりの家族の人数と家族内労働力数は、本村全体では4.9人と3.0人、農家118戸では6.1人と3.6人、非農家104戸では3.5人と2.3人だった。さらに、所有地が1.3畝～16.9畝

だった8戸の地主以外に、自作農兼地主（カッコ内は所有面積・貸出面積）は、農家番号121（41畝・27.3畝）・122（5.2畝・2.6畝）・203（7.8畝・5.2畝）の3戸のみだった。

表1-2を見てみると、非農家104戸のうち地主8戸は、1戸当たりの家族の人数と家族内労働力数が4.6人と3.2人で、非農家の平均の3.5人と2.3人を上回っていたが、本村全体の平均の4.9人と3.0人とほぼ同じだった。さらに、農家番号98（所有面積5.2畝）は2人が月工として、また、農家番号141（所有面積1.3畝）は日工として雇傭され、さらに、農家番号170・233はわずか6.5畝・5.2畝の土地を貸出しているにすぎなかったため、出稼ぎによる収入によって家計を補わざるをえなかった。

表1-3を見てみると、8戸の地主を除く96戸の非農家における1戸当たりの家族人数と家族内労働力数は、会社員として勤務している3戸のみが本村の平均

表1-2 南権府荘における地主8戸の状況。

Table 1-2 Landlords in Nanquanfuzhuang.

農家番号	所有面積	家族人数 (労働力数)	被雇農農業労働者	備考
191	16.9	3(3)		
47	15.6	3(2)		
174	13.0	7(6)		会社員
170	6.5	5(2)		出稼ぎ
98	5.2	5(4)	月工2人	雇農, 入典貸出地5.2畝
233	5.2	5(3)		出稼ぎ
123	3.9	5(3)		牧師
141	1.3	4(3)	日工	苦力

典拠) 表1-1に同じ。

表1-3 南権府荘における非農家96戸の状況（8戸の地主を除く）。

Table 1-3 Non-farming families in Nanquanfuzhuang.

職種	戸数	平均家族人数 (平均労働力数)	被雇農農業労働者数
行商	32	3.6(2.4)	年工4戸4人, 日工7戸7人
雇農	17	3.9(2.6)	年工1戸1人, 月工1戸1人, 日工16戸21人
乞食	10	2.0(0.8)	日工3戸3人
出稼ぎ	7	4.7(3.4)	
苦力	7	4.1(2.5)	月工1戸1人, 日工1戸2人
茶館	4	2.7(1.5)	月工1戸1人, 日工1戸1人
職人	4	2.7(1.5)	日工2戸2人
無職	4	2.2(1.0)	
洋車夫	3	3.0(1.6)	日工1戸2人
理髪店	2	4.5(2.0)	日工1戸2人
その他	3	2.6(2.0)	

典拠) 表1-1に同じ。なお、職人は左官2戸・「大工」(「木工」(家具・木工職人)の誤り)1戸・「鉄工」(鍛冶屋)1戸、その他は牧師1戸・「推車業」(一輪車の車夫)1戸・「襪襦買」(襪襦切れ回収)1戸。

値を上回っており、出稼・理髪店・苦力・雇農・行商が非農家の平均値をほぼ上回っていた。そして、10戸の乞食のうち3戸は日工として働いており、雇農は日工が15戸18人、月工兼日工が1戸（1人と3人）、年工が1戸1人などの計17戸23人だった。なお、農家番号107（雇農）については統計資料に2.6畝の作付面積が記載されており、一方、農家番号177（自作農）は経営面積1.3畝・所有面積3.9畝・入典貸出地2.6畝だったことから、農家番号107は農家番号177の土地に作付していたと考えられる。

32戸の行商のうち野菜の行商が21戸、日工や年工

を兼ねていた9戸のうち8戸までが野菜の行商を兼ねており、都市近郊農村だった本村では都市部向けの野菜栽培が盛んだったことがわかる。

ところで、8戸の地主のうち2戸が農業労働者として雇傭され、この8戸を除く96戸の非農家のうち82戸（約85%）が農業労働者として雇傭されていたことから、実質的な脱農化の進行は都市近郊農村としては相対的に緩慢だったと言える。

表1-4～6を見てみると、総戸数222戸のうち農家が118戸（53.1%）にすぎないことから、南権府荘では脱農化がかなり進行していることがわかる。

表1-4 南権府荘における10.1畝以上層32戸の状況.

Table 1-4 Farming families which cultivate more than 10.1 mu in Nanquanfuzhuang.

農家番号	経営面積 (所有面積)	経営形態	家族人数 (労働力数)	農業労働者数		作付面積(畝)					備考
				雇傭	被雇傭	小麦	早粟	晩粟	芥菜	豆類	
138	48.8(48.8)	自	12(6)	年工・日工		32.5	13.0	7.8	2.6	22.8	
65	26.0(26.0)	自	13(9)	年工・日工6人		10.4	15.6	10.4			
120	26.0(26.0)	自	10(3)	日工30日		14.3	10.4	1.3		13.0	
70	24.7(24.7)	自	10(5)	年工・日工		6.5	7.8	3.9		13.0	
147	20.8(0)	小	9(3)	日工6日		15.6	3.9	5.4		9.1	
205	20.5(20.5)	自	12(8)			11.4	7.8	3.9		7.5	
60	18.2(18.2)	自	13(6)	年工		17.6		17.6			
156	18.2(2.6)	小自	8(3)			16.9		16.9			
72	17.6(12.4)	自小	10(6)			9.6	5.2	9.6			
187	17.6(15.0)	自小	9(5)	日工10日		13.7	2.6	5.9		7.8	
4	15.6(6.5)	小自	9(5)			10.4	3.9	7.8	2.6		入典地1.3畝
57	15.6(15.6)	自	5(2)	日工20日		15.3				5.2	
93	15.6(15.6)	自	5(4)	年工		6.5	7.8	6.5			
165	15.6(15.6)	自	15(8)		日工3人	15.6		14.3			
173	14.3(14.3)	自	7(5)	年工・日工2人		7.8	5.2	3.9		3.9	
193	14.3(14.3)	自	4(2)	日工		7.8	5.2	3.9		3.9	
121	13.7(41.0)	地自	10(4)	年工・日工		13.7		4.6		7.8	
13	13.0(0)	小	7(5)		日工3人	13.0				13.0	
52	13.0(13.0)	自	10(7)			11.9		11.9			入典地5.2畝
53	13.0(0)	小	7(3)		年工	13.0		13.0			
56	13.0(13.0)	自	10(6)			10.4		5.2		5.2	
162	13.0(2.6)	小自	7(4)		日工	7.8	5.2	1.3		5.2	
168	13.0(13.0)	自	7(3)			13.0		10.4			
86	11.9(3.1)	小自	12(10)		日工	11.9		10.9			
135	11.7(9.1)	自小	6(3)		日工	11.7		7.0		2.6	
160	11.7(2.6)	小自	7(5)		日工	11.7		11.7			
188	11.7(7.8)	自小	8(7)		日工2人	11.4		7.8		1.5	
63	11.5(1.1)	小自	11(7)		日工	7.8	3.9	2.6		5.2	
105	10.4(0)	小	3(2)			10.4				10.4	
139	10.4(5.2)	自小	17(8)		日工	10.4		10.4			左官
164	10.4(3.9)	小自	8(4)		日工	9.1		9.1			
169	10.4(10.4)	自	6(3)	日工		10.4		7.8			

典拠) 表1-1に同じ。

表1-5 南権府荘における5.1～10畝層38戸の状況.

Table 1-5 Farming families which cultivate 5.1-10 mu in Nanquanfuzhuang.

農家 番号	経営面積 (所有面積)	経営 形態	家族人数 (労働力数)	農業労働者数		作付面積(畝)						備 考
				雇 傭	被雇傭	小麦	玉蜀黍	高粱	早粟	晚粟	豆類	
16	9.1(0)	小	7(3)			9.1	4.5				4.5	左官
159	9.1(1.3)	小自	17(8)			9.1				9.1		会社員
189	8.5(0)	小	7(3)			8.5				5.9	2.6	会社員
1	7.8(0)	小	6(5)	年工		6.5	6.5					「大工」
11	7.8(7.8)	自	7(5)	日工		5.2		2.6			2.6	
50	7.8(7.8)	自	3(3)									苦力,入典地7.8畝
75	7.8(7.8)	自	7(4)			5.2				5.2		
94	7.8(7.8)	自	6(3)			7.8				7.8		
155	7.8(7.8)	自	6(2)			5.2	2.6		2.6		2.6	
226	7.8(7.8)	自	12(6)			5.2				5.9		
5	6.5(6.5)	自	7(5)			6.5					5.2	
91	6.5(1.3)	小自	3(1)		日工	6.5				5.2		
92	6.5(0)	小	8(5)		日工2人	6.5				6.5		出稼ぎ
150	6.5(3.9)	自小	4(2)			6.5				5.7		
136	5.9(5.9)	自	7(5)		日工	5.2				3.9		
137	5.9(5.9)	自	3(2)			3.3			3.3	2.3		
58	5.7(5.7)	自	9(5)			5.7	5.2					雇農
158	5.7(3.1)	自小	5(4)			5.2				5.2		
17	5.2(0)	小	2(2)			5.2				5.2		
18	5.2(0)	小	4(2)			5.2				2.6	2.6	
21	5.2(5.2)	自	5(3)	日工2人		5.2				2.6	2.6	
45	5.2(0)	小	2(2)			5.2				2.6	2.6	
59	5.2(0)	小	6(5)			5.2				4.1		
69	5.2(0)	小	2(1)	日工		5.2				5.2		
83	5.2(5.2)	自	5(2)			5.2				5.2		
85	5.2(0)	小	4(3)		日工2人	3.9				3.9		
87	5.2(5.2)	自	5(2)	日工	日工	5.2				5.2		雇農
97	5.2(5.2)	自	4(2)		日工	5.2				1.3	2.6	
101	5.2(5.2)	自	6(3)		日工	5.2				2.6	2.6	雇農
103	5.2(5.2)	自	9(5)		日工2人	5.2				5.2		「大工」
148	5.2(0)	小	5(3)		日工	2.6			2.6		2.6	野菜行商
154	5.2(5.2)	自	4(2)		日工	2.6				5.2		
172	5.2(5.2)	自	4(1)		日工	3.9			1.3	3.9		
176	5.2(0)	小	6(4)			5.2				5.2		出稼ぎ
185	5.2(0)	小	7(5)		日工2人	5.2				5.2		雇農
190	5.2(5.2)	自	11(6)		日工2人	5.2				2.5	2.6	会社員
218	5.2(5.2)	自	3(2)			5.2				5.2		
223	5.2(5.2)	自	9(6)			5.2				5.2		出稼ぎ

典拠) 表1-1に同じ。

表1-6 南権府荘における5畝以下層48戸の状況。

Table 1-6 Farming families which cultivate more than 5 mu in Nanquanfuzhuang.

農家 番号	経営面積 (所有面積)	経営 形態	家族人数 (労働力数)	農業労働者数		作付面積(畝)				備 考
				雇 傭	被雇傭	小麦	早粟	晩粟	豆類	
81	4.8(4.8)	自	10(6)		日工	4.8		4.8		野菜行商
178	4.1(0)	小	7(4)		日工2人	4.1		4.1		雇農
7	3.9(3.9)	自	3(1)		日工	3.9		3.9		
40	3.9(0)	小	8(3)			3.9		3.9		会社員
182	3.9(3.9)	自	7(4)			3.9		3.9		出稼ぎ
213	3.9(3.9)	自	9(6)			3.9		3.9		飯館
44	3.9(3.9)	自	2(2)		日工	3.9			3.9	雇農
67	3.6(1.0)	小自	7(3)		日工2人	3.6				野菜行商
149	3.3(0)	小	4(4)			3.3		3.3		
8	3.1(0)	小	4(4)	日工2人		3.1		3.1		野菜行商
20	3.1(3.1)	自	3(3)		日工	3.1		3.1		会社員, 入典地3.1畝
127	2.9(2.9)	自	1(1)				2.9			左官
134	2.7(2.7)	自	4(2)		日工	2.7		2.7		雇農
2	2.6(2.6)	自	6(2)	日工	日工	2.6		2.6		雇農
14	2.6(1.0)	小自	2(2)			2.6			2.6	野菜行商
15	2.6(7.8)	自	6(2)	日工		2.6			2.6	雑貨商, 入典貸出地5.2畝
25	2.6(0)	小	2(2)		日工	2.6		2.6		雇農
26	2.6(2.6)	自	10(5)		日工	2.6		2.6		会社員, 入典地2.6畝
35	2.6(2.6)	自	7(5)	日工	日工2人	2.6		2.3		雇農
41	2.6(2.6)	自	7(4)		日工	2.6		2.6		雇農, 入典地2.6畝
42	2.6(2.6)	自	4(2)			2.6			2.6	布行商
109	2.6(2.6)	自	3(2)		日工					雇農
122	2.6(5.2)	地自	6(2)	日工	日工	2.6		2.6		出稼ぎ
171	2.6(2.6)	自	6(4)			2.6		2.6		出稼ぎ
195	2.6(0)	小	4(4)		日工2人	2.6		2.6		野菜行商
203	2.6(7.8)	地自	2(1)			2.6		2.6		
214	2.6(1.3)	自小	4(3)			2.6		2.6		出稼ぎ
43	2.3(2.3)	自	2(2)			2.3		2.3		苦力, 入典地2.3畝
194	2.3(2.3)	自	3(3)		日工	2.3		2.3		雇農
221	2.3(2.3)	自	1(1)			2.3		2.3		
9	2.0(2.0)	自	3(2)			2.0		2.0		出稼ぎ
12	2.0(0)	小	1(1)		日工	2.0			2.0	雇農
48	1.8(1.8)	自	6(4)			1.8		1.3		文具行商
6	1.3(0)	小	2(2)		日工2人	1.3				
37	1.3(1.3)	自	5(3)			1.3		1.3		豆腐行商, 入典地1.3畝
95	1.3(1.3)	自	3(2)			1.3		1.3		雑貨商
116	1.3(1.3)	自	9(5)		日工2人	1.3		1.3		雇農
125	1.3(0)	小	2(2)		日工	1.3		1.3		雇農
145	1.3(1.3)	自	4(2)		日工	1.3		1.3		雇農
177	1.3(3.9)	自	3(2)			1.3		1.3		煙草行商, 入典貸出地2.6畝
183	1.3(1.3)	自	3(1)		日工	1.3		1.3		雇農
192	1.3(1.3)	自	2(2)			1.3		1.3		出稼ぎ
199	1.3(0)	小	3(2)			1.3		1.3		野菜行商
73	1.1(1.1)	自	2(1)		日工2人	1.1		1.1		野菜行商
46	1.0(1.0)	自	6(4)		日工	1.0				雇農
3	0.8(0.8)	自	7(3)		日工・年工	2.0				野菜行商
88	0.7(0.7)	自	6(4)			0.7		0.7		出稼ぎ
89	0.7(0.7)	自	4(3)			0.7		0.7		出稼ぎ

典拠) 表1-1に同じ。

以下では、経営面積別における経営様式・戸数の割合・自作農戸数の割合・小作地率・家族の人数と家族内労働力数・所有面積と経営面積・農業労働者の雇傭数と被雇傭数・各農産物の作付状況・農業外就労者の状況などについて分析していきたい。

経営様式は、20.1畝以上層では自作農5戸・小自作農1戸、10.1～20畝層では地主兼自作農1戸・自作農10戸・自小作農4戸・小自作農6戸・小作農3戸、5.1～10畝層では自作農21戸・小自作農及び小自作農各2戸・小作農13戸、5畝以下層では地主兼自作農ないし小自作農各2戸・自作農33戸・小自作農1戸・小作農10戸で、全層で自作農が多数を占め、自作農の比率は20.1畝以上層が最も高く、これに5畝以下層が次いでいた。

戸数の割合は、20.1畝以上層では5.0%、10.1～20畝層では22.0%、5.1～10畝層では32.2%、5畝以下層では40.6%と最も多くなっていることから、10畝以下層は72.8%に達しており、零細農化の進行が激しかったことがわかる。

1戸当たりの家族の人数と家族内労働力数の平均値は、20.1畝以上層では11人と5.6人、10.1～20畝層では8.4人と4.8人、5.1～10畝層では5.9人と3.4人、5畝以下層では4.4人と2.7人で、経営面積と家族人数及び家族内労働力数との間には正の相関関係が見られ、また、全農家118戸の平均値(6.1人と3.6人)が本村全体の平均値(4.9人と3.0人)を上回っていたが、10畝以下層では全農家の平均値を下回っており、零細農ほど核家族や単身世帯ないし準単身世帯が多かった。

小作地率(経営面積に占める小作地面積の割合)は、20.1畝以上層では12.4%、10.1～20畝層では35.3%、5.1～10畝層では41.3%、5畝以下層では27.7%で、5.1～20畝層が平均の31.6%を上回り、5.1～10畝層の零細農層が最も積極的に経営規模を拡大していたのに対して、20.1畝以上層は経営規模の拡大には最も消極的だった。

また、地主兼自作農を含む自作農の割合は、20.1畝以上層では83.3%、10.1～20畝層では42.3%、5.1～10畝層では55.2%、5畝以下層では72.9%で、20.1畝以上層の自作農の割合が最も多く、20畝以下層では零細農ほど自作農の割合が多くなっていたことから、零細自作農化が進行していたと言える。

家族1人当たりの所有面積(カッコ内は家族内労働力数1人当たりの面積)は、20.1畝以上層では2.2畝(4.3畝)、10.1～20畝層では1.1畝(2.0畝)、5.1～10

畝層では0.6畝(1.0畝)、5畝以下層では0.4畝(0.7畝)で、各層間の較差は家族内労働力数1人当たりでは約0.7～2.1倍だったが、家族1人当たりでは約1.5～2倍へ縮小していた。

他方、家族1人当たりの経営面積(カッコ内は家族内労働力数1人当たりの面積)は、20.1畝以上層では2.5畝(4.9畝)、10.1～20畝層では1.6畝(2.8畝)、5.1～10畝層では1.0畝(1.7畝)、5畝以下層では0.5畝(0.8畝)で、各層間の較差は家族内労働力数1人当たりでは約1.6～2.1倍だったが、家族1人当たりでは約1.5～2倍に縮小していたことから、各層間の格差は、家族内労働力数1人当たりでは所有面積よりも経営面積において小さかったが、家族1人当たりでは同数で、また、5畝以下層が経営規模の拡大に最も消極的だったのに対して、10.1～20畝層が最も積極的に経営規模を拡大していたと言える。

1戸当たりの貸出地面積(カッコ内は所有面積に占める割合)は、10.1～20畝層では27.3畝(18.6%)、5畝以下層では3.9畝(7.9%)で、所有面積20.1畝以上層・5.1～10畝層は全く貸出地がないのに対して、所有面積10.1～20畝層は最も積極的に土地を貸し出して地主経営を行っていた。一方、1戸当たりの借入地面積(カッコ内は経営面積に占める割合)は、20.1畝以上層では20.8畝(12.4%)、10.1～20畝層では4.8畝(35.3%)、5.1～10畝層では2.5畝(41.3%)、5畝以下層では0.6畝(27.7%)で、借入地面積と経営面積との間には正の相関関係が見られるが、経営面積に占める割合からは経営面積5.1～10畝層が最も積極的に土地を借り入れて経営規模を拡大していたことがわかる。

雇農の雇傭者数は、年工が8人、日工が28人で、20.1畝以上層では年工が3人、日工が10人、10.1～20畝層では年工が4人、日工が7人、5.1～10畝層では年工が1人、日工が5人、5畝以下層では日工が6人だった。一方、被雇傭者数は年工が7人、月工が5人、日工が106人で、10.1～20畝層では年工が1人、日工が15人、5.1～10畝層では日工が18人、5畝以下層では年工が1人、日工が32人で、地主では月工が2人、日工が1人、非農家では年工が5人、月工が3人、日工が40人だった。よって、年工1人が本村外から流入し、逆に、月工5人分と日工78人分の労働力が本村外へ流出していたことになる。

主な農産物の作付面積が最も多い戸数の割合(他作物と同数の農家を含む)は、20.1畝以上層では小

麦・早粟・豆類が66.6%・16.6%・16.6%，10.1～20畝層では小麦・晩粟・豆類・早粟が80.7%・26.9%・7.6%・3.8%，5.1～10畝層では小麦・晩粟・早粟・玉蜀黍・豆類が92.1%・47.3%・5.2%・2.6%・2.6%，5畝以下層では小麦・晩粟・豆類・早粟が95.8%・72.9%・10.4%・2.0%で，作付けが最多だった小麦栽培農家の割合と経営面積との間には必ずしも明確な相関関係が見られず，栽培農家の割合で小麦に次ぐのが粟だった。

農業外就労者数は，20.1畝以上層では1人もなく，10.1～20畝層では左官1人のみで，5.1～10畝層では出稼ぎと会社員が各3戸各3人，「大工」が2戸2人・左官と野菜行商が各1戸各1人，5畝以下層では野菜行商と出稼ぎが各8戸各8人，会社員が3戸3人，雑貨商が2戸2人，「飯館」と左官が各1戸各1人，行商（布・文具・豆腐・煙草）が各1戸各1人となっていた。このことから，農業外就労者はほぼ10畝以下層に集中しており，その職種は行商などの商業関連が最も多く，これに出稼ぎが次ぎ，さらにこれに次ぐ会社員は10畝以下層に集中していた。

Ⅲ. 岫山莊

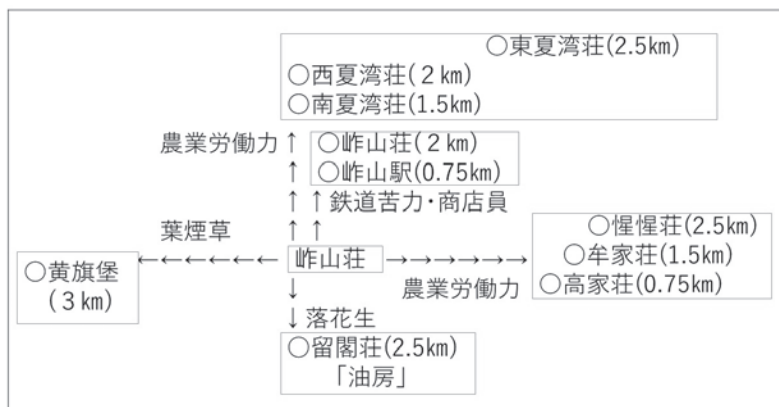
1) 概況

岫山莊の「隣接諸村のうち本村と物資の取引上最も密接なる関係を有するものは東北方1.5支里」の岫山街で，「農家が副業的に行ひつゝある饅頭製造販売の如きも多くは岫山街を対象とし，「岫山街に垂い

で取引多きは西方6支里なる黄旗堡駅で」，専ら葉煙草が取引され，「東南方5支里なる留閣莊には油房があつて落花生の販売されるものが多く」，「東方6支里なる惺々山」における「取引も亦相ママ等多」かつたという。

本村では，「総戸数478戸」の中から「200戸を選定して調査」されたが（史料2，凡例），総人口が2,492人だったことから，1戸当たりの家族人数は約5.2人となり，また，「耕地僅少にして労働力過剰なるを以つて，過剰労働力は主として農繁期に於て付近の村落に農業労働として被備される。被備先の主なるものは北方3～5支里の間にある東夏灣，南夏灣，西夏灣の諸村にして就中東夏灣，西夏灣が多い。その他東方1.5支里なる高家莊，東南方5支里なる留閣莊，東北方5支里なる惺々莊等の諸村に幾分被備される。尚岫山街の商店或は鉄道関係の苦力として働くも相ママ等多」かつた。さらに，本「村外よりの雇傭は秋期の落花收穫期に於て少数見られる程度に過ぎず」，しかも，「本村の全部が自作農で」，南夏灣莊・牟家莊・高家莊・留閣莊などの「所有に属する本村との隣接地帯の耕地の多くは，以前本村の所有地」だったが，「漸次売却されて隣村の所有に帰した」という（史料2，p.48）。

以上のことをまとめたのが図3である。物資集散地の岫山街からの距離から見てみると，周辺農村の東夏灣莊・西夏灣莊・南夏灣莊・惺惺莊・牟家莊・高家莊などへ岫山莊から農業労働力が流出し，しかも，南夏灣莊・牟家莊・高家莊・留閣莊などへ岫山莊から土地所有権も流出していた。また，物資の主な取



典拠) 華北交通株式会社総裁室資業局『鐵路愛護村実態調査報告書 膠濟線岫山愛護区(安邱県)岫山莊』華北交通調・1第2号(1940)31～32より作成。なお，()内は岫山莊からの距離。

図3 岫山莊と周辺農村などとの経済関係。

Fig. 3 The economic relation between Zuoshan Zhuang and its environs.

引先は岫山街で、これに黄旗堡駅が次ぎ、それ以外にも、農産物の販売先として葉煙草の黄旗堡駅や落花生の留閣荘などがあつた。

ただし、全戸が自作農だつた岫山荘内における「典」の関係は、本村内の農家番号25の「典出」地が2.4畝(農家番号10・19に各1.2畝)にすぎず、また、農家番号10・17・19の「典入」地が計3.2畝にすぎなかつた(史料2, p.62)。

以上、都市部や县城から離れた本村では、農業外就労機会は極めて少なく、余剰労働力を近隣農村へ「雇農」(農業労働力)や「苦力」として供給しており、本村の内外において地主・小作関係や「典」関係(土地耕作権を含む)の移動がほとんど見られず、農業生産が本村内でほぼ完結するような経済状況にあつた。ただし、本村でも農村経済の観点からは農業労働力や農産物の移動において一定程度の流動性が見られた。

2) 統計資料から見た経済状況

表2-1～5を見てみると、非農家14戸のうち地主は農家番号74(所有面積7.8畝)のみで、地主兼自作農(カッコ内は経営面積・所有面積)は農家番号25(9.1畝・15.3畝)・162(5.2畝・10.4畝)の2戸にすぎず、逆に、小作農は1戸もなく、地主・小作関係がほとんど展開せず、1戸当たりの家族の人数と家族内労働力数は5.2人と3.0人だつた。

表2-1を見てみると、調査対象戸200戸のうち非農家は14戸(7%, 貸出地7.8畝を所有する1戸除くと6.5%)にすぎず、1戸の地主以外の13戸の内訳は乞食が3戸、出稼ぎが3戸3人、年工が2戸5人(1,456日)、月工が1戸1人(120日)、日工が4戸6人(510日)で、しかも、1人が出稼ぎに出ている農家番号52が饅頭を製造・販売する以外には農業外就労者が1人もいなかったことから、14戸の非農家はほとんど脱農化していなかつた。なお、家畜・家禽は農家番号52・103がそれぞれ鶏5羽と牛1頭を所有するのみだつた。また、非農家14戸における1戸当たりの家族の人数と家族内労働力数は3.6人と2.1人で、本村全体の平均値(4.9人と3.0人)を下回っていた。

表2-2～5から、経営面積別における戸数と自作農の割合・経営様式・小作地率・家族の人数と家族内労働力数・所有面積と経営面積・農業労働者の雇傭数と被雇傭数・家畜と家禽の所有数・主な農産物の作付や農業外就労の状況などについて分析したい。

戸数の割合は、20.1畝以上層では0.5%, 10.1～20畝層では22.5%, 5.1～10畝層では最多の51.0%, 5畝以下層では25.8%で、10畝以下層は76.8%に達し、零細農化が進行していた。また、自作農の割合は、20.1畝以上層では100%, 10.1～20畝層では97.6%, 5.1～10畝層では96.8%, 5畝以下層では100%だつたことから、経営様式は自作農が圧倒的に多数を占め、零細自作農化がかなり進行していた。

表2-1 岫山荘における非農家14戸の状況。

Table 2-1 Non-farming families in Zuoshanzhuang.

農家番号	家族人数(労働力数)	被雇傭農業労働者	家畜	備考
52	9(3)		鶏5羽	出稼ぎ1人, 饅頭製造
72	8(5)	年工4人1,200日		
107	6(2)	日工100日		
111	5(2)	日工3人300日		
103	4(4)	年工256日	牛1頭	
124	4(4)	日工180日		
129	4(4)			乞食
53	3(1)			出稼ぎ1人
74	2(2)			地主(7.8畝所有)
84	2(1)			出稼ぎ1人
14	1(1)			乞食
68	1(0)	日工30日, 月工120日		乞食
85	1(0)			
112	1(0)			

典拠)『鉄路愛護村実態調査報告書 膠濟線岫山愛護区(安邱県)岫山荘』(1940年)附表より作成。なお、家族内労働力数は表1-1と同様にして算出した。

表2-2 岫山荘における経営面積10.1畝以上層43戸の状況.

Table 2-2 Farming families which cultivate more than 10.1 mu in Zuoshanzhuang.

農家 番号	経営面積 (所有面積)	経営 形態	家族人数 (労働力数)	家 畜				作付面積(畝)							備 考	
				牛	驢	騾	鶏	小麦	高粱	粟	玉蜀黍	大豆	緑豆	甘藷		落花生
21	22.3(22.3)	自	16(8)			1	2	15.6		5.2		15.6				出稼ぎ1人(青島)
140	18.2(18.2)	自	8(4)	1			2	10.4	2.6	5.2		7.8		2.6		家賃収入60元, 雇傭14日
152	17.4(17.4)	自	8(4)			1		10.4	1.8	5.2		7.8		2.6		雇傭10日
18	16.9(16.9)	自	14(5)	1			2	6.5		5.2	2.6	1.3		2.6	5.2	日工2人200日
174	15.6(15.6)	自	8(5)		1			5.2	2.6	2.6		2.6		2.6	5.2	
167	14.3(14.3)	自	7(2)		1			7.8		6.5		5.2		2.6		日工60日, 年工雇傭300日
54	13.0(13.0)	自	14(7)		1			7.8		5.2		3.9		2.6		出稼ぎ1人, 日工2人120日, 煙草1.3畝
60	13.0(13.0)	自	5(4)		1		1	6.5	2.6	3.9		2.6		1.3	2.6	日工10日
170	13.0(13.0)	自	6(6)			1	2	7.8		5.2		5.2		2.6		
187	13.0(13.0)	自	7(5)		1		4	5.2		5.2		2.6		2.6	2.6	日工30日
188	13.0(13.0)	自	8(4)		1		1	7.8		5.2		5.2		2.6		日工60日
193	13.0(13.0)	自	5(3)			1		7.8	1.3	3.9		6.5		1.3		
150	12.4(12.4)	自	5(2)	1				7.2		5.2		5.2		2.0		
33	11.7(11.7)	自	7(5)			0.5	5	6.5	1.3	3.9		1.3		2.6	2.6	日工20日
39	11.7(11.7)	自	6(3)		1			5.9	1.3	3.9		2.6	1.8	1.5		出稼ぎ1人, 日工10日, 黍0.5畝
57	11.7(11.7)	自	7(2)		1	1		6.5	2.6	2.6		2.6		2.6	1.3	
148	11.7(11.7)	自	5(3)		1			6.5		5.2		5.2		1.3		
157	11.7(11.7)	自	7(4)	1				6.5	2.6	2.6		5.2		1.3		日工30日
176	11.7(11.7)	自	6(2)		1		2	5.2	2.6	3.9		2.6		2.6		
180	11.7(11.7)	自	7(4)			1		7.8	1.3	2.6		5.2		2.6		
127	11.4(11.4)	自	10(6)					5.2		6.2		2.6		2.6		月工180日
5	11.1(11.1)	自	9(4)		1			5.2	2.6	2.6		2.6		2.6		
19	10.9(7.8)	自小	13(6)	1				5.7		5.2		3.1		2.6		日工3人300日
194	10.9(10.9)	自	8(5)		1			7.8		3.1		5.2		2.6		日工100日
130	10.7(10.7)	自	4(1)	0.5			1	5.2		5.2	2.6	1.0		1.3	0.2	日工10日
38	10.5(10.5)	自	6(4)	1			1	6.5	1.3	2.6		5.2		1.3		日工20日
2	10.4(10.4)	自	6(5)	1				5.2		5.2		2.6		1.3	1.3	日工2人120日
8	10.4(10.4)	自	7(3)		1		2	5.2	2.6	2.6		2.6		2.6		
28	10.4(10.4)	自	5(4)		1			5.2		5.2	2.6	2.6				日工90日
56	10.4(10.4)	自	6(4)		1			5.2	2.6	2.6		2.6		2.6		
81	10.4(10.4)	自	4(3)	2			2	5.2		2.6		2.6		2.6	2.6	
108	10.4(10.4)	自	8(5)					5.2		5.2		2.6		2.6		
120	10.4(10.4)	自	6(3)		1			5.2	2.6	2.6		3.9		1.3		日工70日
122	10.4(10.4)	自	9(6)		1		3	5.2	2.6	2.6		2.6		2.6		出稼ぎ2人(青島, 駅前)
123	10.4(10.4)	自	8(5)		1			5.2	1.3	3.9		2.6		2.6		日工2人230日
138	10.4(10.4)	自	12(7)				2	5.2	1.3	3.9		2.6		2.6		日工150日
149	10.4(10.4)	自	5(3)	1				5.2	2.6	2.6		5.2				
169	10.4(10.4)	自	3(2)			1		5.2		5.2		3.9		1.3		年工雇傭300日
171	10.4(10.4)	自	7(3)				3	3.9		2.6	1.3	1.3		2.6	2.6	日工2人90日
181	10.4(10.4)	自	5(3)	1				5.2	2.6	2.6		3.9		1.3		
184	10.4(10.4)	自	4(3)		1		2	5.2	2.6	2.6		3.9		1.3		
195	10.4(10.4)	自	4(4)		1			5.2		5.2		3.9		1.3		日工100日
197	10.4(10.4)	自	6(4)		1		1	5.2		5.2		2.6		2.6		

典拠) 表2-1に同じ。

表2-3 岫山荘における経営面積7.1～10畝層43戸の状況。

Table 2-3 Farming families which cultivate 7.1-10 mu in Zuoshanzhuang.

農家 番号	経営面積 (所有面積)	経営 形態	家族人数 (労働力数)	家畜			作付面積							備 考	
				牛	驢	鶏	小麦	高粱	粟	玉蜀黍	大豆	緑豆	甘藷		落花生
65	9.6(9.6)	自	5(4)		0.5	1	5.2		3.9	1.0	0.7	0.5	1.3	1.3	出稼ぎ1人(駅前), 黍0.7畝
17	9.1(7.0)	自小	5(2)		1	1	5.2	2.0	1.8		2.6		2.6		日工90日
25	9.1(15.3)	自地	7(6)			2	5.2	1.3	2.6				2.6	2.6	日工3人180日
147	9.1(9.1)	自	5(2)		0.5		3.9		5.2		1.3		2.6		日工20日
151	9.1(9.1)	自	5(3)		1	1	5.2		3.9		3.9		1.3		
153	9.1(9.1)	自	8(3)			2	3.9	2.6	2.6		2.0		1.8		日工60日
161	9.1(9.1)	自	3(2)	0.5			5.2		2.6	1.3	3.9		1.3		
109	8.8(8.8)	自	8(2)		1		2.6		3.6		1.3		1.3	2.6	
183	8.5(8.5)	自	8(5)		1	2	5.2		3.3		2.6		2.6		日工2人300日
192	8.3(8.3)	自	4(3)	1			5.2		3.1		2.6		2.6		日工20日
146	8.0(8.0)	自	5(2)		0.5		5.2		2.8		3.9		1.3		日工30日
3	7.8(7.8)	自	6(2)				5.2		2.6		1.3		1.3		
4	7.8(7.8)	自	3(3)			2	5.2		2.6	2.6	2.0		0.5		日工100日
13	7.8(7.8)	自	6(5)			2	5.2		2.6		2.6			2.6	日工100日
16	7.8(7.8)	自	5(5)		1		5.2		2.6		2.6		2.6		日工2人150日
22	7.8(7.8)	自	5(2)			2	5.2		2.6		5.2				日工60日
23	7.8(7.8)	自	5(2)				2.6		2.0		2.6			3.1	日工100日
31	7.8(7.8)	自	5(4)			2	2.6		5.2		1.3		1.3		日工70日
58	7.8(7.8)	自	5(3)	1		1	5.2		2.6		2.6		1.3	1.3	
64	7.8(7.8)	自	6(4)		0.5		3.9		3.9		2.6		1.3		日工90日
69	7.8(7.8)	自	11(5)		1		3.9		2.6		3.9		1.3		
73	7.8(7.8)	自	7(3)		0.5	1	3.9		3.9		1.3		1.3	1.3	
90	7.8(7.8)	自	5(2)				3.9		3.9		2.6		1.3		日工2人165日
91	7.8(7.8)	自	3(2)				2.6		2.6		1.3		1.3	2.6	
105	7.8(7.8)	自	3(1)		0.3	1	3.9		1.8		2.6		1.3	2.0	
117	7.8(7.8)	自	5(4)				5.2		2.6		3.9		1.3		日工2人200日
118	7.8(7.8)	自	6(5)			1	2.6		5.2		2.6				日工2人160日
119	7.8(7.8)	自	5(2)				3.9	2.6	1.3		2.6		1.3		日工60日
132	7.8(7.8)	自	2(1)				2.6		2.6		2.6			2.6	日工20日
134	7.8(7.8)	自	5(4)				5.2		2.6	2.6	1.3		1.3		日工2人60日
143	7.8(7.8)	自	8(6)		1	1	5.2		2.6		2.6		2.6		日工40日
144	7.8(7.8)	自	3(1)			1	3.9		2.6		3.9				
154	7.8(7.8)	自	4(3)			3	3.9		3.9		2.0		1.8		日工120日
172	7.8(7.8)	自	6(5)		1	3	3.9	1.3	2.6	1.3	1.3		1.3		出稼ぎ1人, 日工20日
173	7.8(7.8)	自	5(4)			5	3.9	1.3	2.6		2.6		1.3		
179	7.8(7.8)	自	5(4)				5.2		2.6		2.6		2.6		
185	7.8(7.8)	自	5(3)				5.2		2.6		3.9		1.3		
186	7.8(7.8)	自	6(5)			2	3.9		2.6		2.6		1.3		日工2人130日
189	7.8(7.8)	自	2(1)				5.2		2.6		5.2				
7	7.5(7.5)	自	5(2)			1	4.6		1.8		2.6			2.0	日工100日
145	7.5(7.5)	自	4(3)				4.9		2.6		3.9		1.0		日工25日
100	7.2(7.2)	自	7(2)		0.3	1	2.6		4.6		1.3		1.3		
200	7.2(7.2)	自	4(2)		1		3.3		3.9		2.6		0.7		日工30日

典拠) 表2-1に同じ。

表2-4 峠山荘における経営面積5.1～7 畝層52戸の状況.

Table 2-4 Farming families which cultivate 5.1-7 mu in Zuoshanzhuang.

農家 番号	経営面積 (所有面積)	経営 形態	家族人数 (労働数)	家 畜				作付面積							備 考	
				牛	驢	騾	鶏	小麦	高粱	粟	玉蜀黍	大豆	緑豆	甘藷		落花生
198	7.0(7.0)	自	7(4)		1		1	3.9		2.6		2.6		1.3		出稼ぎ1人(駅前),年工300日,日工30日
11	6.7(6.7)	自	3(1)	0.3			2	3.9	1.3	1.3		2.6		1.3		日工90日
12	6.7(6.7)	自	5(2)	0.3			2	3.9		2.6		2.6		1.3		日工90日
15	6.7(6.7)	自	4(2)	0.3				2.6	1.3	2.6		1.3		1.3		日工100日
1	6.5(6.5)	自	6(5)					3.6		2.0	1.8	1.8		1.3		日工2人160日
20	6.5(6.5)	自	4(3)				4	3.1		2.8	1.3	1.8			0.5	
86	6.5(6.5)	自	3(2)			1	2	3.9		2.6		2.6		1.3		
98	6.5(6.5)	自	6(5)					5.6		1.3		5.6				
141	6.5(6.5)	自	5(4)				1	3.9		2.6		2.8		0.4		日工80日
158	6.5(6.5)	自	4(2)				1	3.9		2.6		2.6		1.3		日工50日
159	6.5(6.5)	自	3(3)		1		1	3.9		2.6		2.6		1.3		日工100日
166	6.5(6.5)	自	3(3)		1			3.9		2.6		2.6		1.3		年工雇備300日
175	6.5(6.5)	自	5(3)					2.6		3.9		1.3		1.3		日工30日
191	6.5(6.5)	自	8(2)		1			3.9		2.6		2.6		1.3		
196	6.5(6.5)	自	4(2)		1		1	3.9		2.6		2.6		1.3		
55	6.2(6.2)	自	4(2)		1			3.1		3.1		1.3		1.8		日工40日
190	6.2(6.2)	自	5(5)		1			3.6		2.6		3.6				日工2人200日
27	5.9(5.9)	自	4(2)					2.6		2.6		2.6				日工120日
10	5.7(5.7)	自	6(2)		1		1	3.1		2.6		3.1				
44	5.7(5.7)	自	2(0)					2.8		2.8		1.3			1.5	
59	5.7(5.7)	自	15(8)		1		2	3.9		1.3				2.6		日工2人110日,煙草1.3畝
164	5.7(5.7)	自	7(3)					3.1		2.6	1.5	1.5				出稼ぎ1人
135	5.4(5.4)	自	3(2)				2	3.1		2.3		1.8		1.3		
6	5.2(5.2)	自	3(3)		1		1	3.9		1.3		3.6		0.2		
9	5.2(5.2)	自	6(5)					3.1		2.0		3.1				
24	5.2(5.2)	自	3(3)		0.5		3	2.6		2.6		1.3		1.3		日工95日
26	5.2(5.2)	自	5(4)					2.6		2.6		1.3		1.3		日工2人160日
30	5.2(5.2)	自	10(7)					5.6				5.6				出稼ぎ1人,日工雇備50日
32	5.2(5.2)	自	5(1)				2	2.6				1.3		1.3	2.6	日工90日
37	5.2(5.2)	自	4(2)					2.6	1.3	1.3		2.0		0.5		
49	5.2(5.2)	自	2(2)					2.6		2.6	2.6					日工雇備6日
50	5.2(5.2)	自	3(3)					1.3		1.3				1.3	2.6	月工183日,日工80日
61	5.2(5.2)	自	3(3)				1	2.6		2.6		1.3		1.3		日工60日
75	5.2(5.2)	自	3(3)		0.5			2.6	2.6			1.3		1.3		日工2人60日
77	5.2(5.2)	自	6(4)		1			2.6		2.6		1.3		1.3		日工雇備2日
78	5.2(5.2)	自	9(6)					2.6	2.6			1.5		1.0		
79	5.2(5.2)	自	5(3)					2.6		2.6				2.6		
88	5.2(5.2)	自	4(2)					2.6		2.6		1.3		1.3		日工120日
99	5.2(5.2)	自	4(2)		0.3		1	2.6	1.3	1.3		1.3		1.3		
110	5.2(5.2)	自	8(2)					2.6		2.6				2.6		
113	5.2(5.2)	自	5(2)					2.6		2.6		1.0		1.5		日工2人160日
114	5.2(5.2)	自	2(2)		1			2.6		2.6		1.3		1.3		
115	5.2(5.2)	自	6(3)		1			2.6		2.6			2.6			日工100日
126	5.2(5.2)	自	5(4)					2.6		2.6		1.3		1.3		日工50日
128	5.2(5.2)	自	5(2)					2.6		2.6		2.6				日工100日
136	5.2(5.2)	自	3(2)				2	5.6				5.6				
139	5.2(5.2)	自	3(2)					2.6		2.6	2.6					出稼ぎ1人,日工雇備2日
160	5.2(5.2)	自	3(1)					2.6		2.6		1.3		1.3		
162	5.2(10.4)	地自	4(1)					5.6				5.6				日工雇備40日
163	5.2(5.2)	自	3(2)		1			2.6	1.3	1.3		1.3		1.3		日工100日
177	5.2(5.2)	自	7(4)					2.6	1.3	1.3		1.3		1.3		日工40日
199	5.2(5.2)	自	6(2)		1			2.6		2.6		1.5		1.5		出稼ぎ1人,日工200日

典拠) 表2-1に同じ。

表2-5 岫山荘における経営面積5畝以下層48戸の状況。

Table 2-5 Farming families which cultivate more less 5 mu in Zuoshanzhuang.

農家 番号	経営面積 (所有面積)	経営 形態	家族人数 (労働力数)	家 畜		作付面積							備 考	
				驢	鶏	小麦	高粱	粟	玉蜀黍	大豆	緑豆	甘藷		落花生
51	4.6(4.6)	自	1(0)		2	2.6		2.0		1.3	1.3			日工雇傭15日
92	4.6(4.6)	自	8(2)		1	2.6		2.0		2.6				日工雇傭70日
125	4.6(4.6)	自	1(1)			2.6		2.0		2.6				日工雇傭15日
133	4.6(4.6)	自	7(4)			2.6		2.0		2.6				
155	4.6(4.6)	自	2(0)		3	0.5		1.3		1.3			2.0	日工雇傭20日
168	4.6(4.6)	自	4(1)			2.6		2.0		1.5		1.0		日工雇傭5日
178	4.6(4.6)	自	3(2)			2.6		1.5		1.3		1.3		日工40日
40	4.4(4.4)	自	7(5)			4.4					4.4			日工2人120日
35	3.9(3.9)	自	3(2)	0.5		1.8		2.0		0.7		0.7		日工20日
41	3.9(3.9)	自	2(2)		1	2.6		1.3		0.5		0.7	1.3	日工25日
76	3.9(3.9)	自	3(3)			2.0	1.0	0.7		1.0		1.0		日工5日
87	3.9(3.9)	自	2(2)			2.6		1.3		1.3		1.3		日工150日
94	3.9(3.9)	自	7(4)	0.5		2.6		1.3		0.7		1.8		日工100日
95	3.9(3.9)	自	5(3)	0.5		2.6		1.3		1.3		1.3		日工90日
104	3.9(3.9)	自	7(3)			2.3		1.5		1.3		1.0		出稼ぎ1人, 日工100日
116	3.9(3.9)	自	4(2)	1	1	2.6		1.3		1.3		1.3		日工100日
131	3.9(3.9)	自	5(2)			2.6		1.3		1.3		1.3		日工200日
182	3.9(3.9)	自	5(3)			2.6		1.3		1.3			1.3	日工2人300日
48	3.6(3.6)	自	2(2)			2.0		1.5		1.5		0.5		日工100日
62	3.6(3.6)	自	2(2)			2.6				2.0		0.5		日工20日
80	3.6(3.6)	自	4(4)			2.6		1.0		1.5		1.0		
34	3.1(3.1)	自	5(3)			1.8		1.3		0.7		1.0		日工10日
83	3.1(3.1)	自	6(3)			3.1				1.5		1.5		月工150日
29	2.6(2.6)	自	7(4)			2.6				2.6				出稼ぎ1人(駅前), 日工100日
36	2.6(2.6)	自	4(3)	1									2.6	日工30日
42	2.6(2.6)	自	3(2)			2.6				1.0		1.5		日工6日
43	2.6(2.6)	自	3(2)										2.6	日工50日
63	2.6(2.6)	自	3(2)											日工120日
66	2.6(2.6)	自	3(2)			1.5		1.0				1.5		出稼ぎ1人
70	2.6(2.6)	自	8(5)			1.3		1.3				1.3		日工3人200日
71	2.6(2.6)	自	7(5)			1.0		1.5				1.0		日工50日
89	2.6(2.6)	自	6(2)										2.6	家賃収入50元, 日工50日
96	2.6(2.6)	自	7(3)			2.6				2.6				
106	2.6(2.6)	自	4(2)					2.6						出稼ぎ1人(黄旗堡), 日工90日, 日工雇傭30日
165	2.6(2.6)	自	6(3)		5	2.6				1.3		1.3		家賃収入50元, 日工100日
97	2.0(2.0)	自	5(2)			2.0							1.8	出稼ぎ1人(青島), 日工100日
142	2.0(2.0)	自	6(6)	1	2	2.0				2.0				
67	1.8(1.8)	自	1(0)			1.8				0.7		1.0		
101	1.7(1.7)	自	2(2)			1.5				0.7		0.7		日工100日
102	1.7(1.7)	自	3(3)					1.5						年工323日
46	1.5(1.5)	自	5(3)		2	0.7		0.7	0.7					日工80日
45	1.0(1.0)	自	3(1)		2	1.0			0.4					
47	1.0(1.0)	自	2(1)			1.0			1.0					日工200日
82	1.0(1.0)	自	1(1)			1.0				1.0				乞食
93	1.0(1.0)	自	2(0)			1.0						1.0		乞食
121	1.0(1.0)	自	10(4)					1.0						日工30日
137	1.0(1.0)	自	3(1)		1	1.0				1.0				乞食
156	0.2(0.2)	自	4(1)			0.2						0.2		乞食, 日工30日

典拠) 表2-1に同じ。

1戸当たりの家族の人数と家族内労働力数は、20.1畝以上層では16人と8人、10.1～20畝層では7.0人と3.9人、5.1～10畝層では5.0人と2.9人、5畝以下層では4.2人と2.3人となっており、10.1畝以上層では本村の平均の5.2人と3.0人を上回っていたことから、経営面積と1戸当たりの家族人数・家族内労働力数との間には正の相関関係が見られる。

10.9畝を経営する農家番号19と9.1畝を経営する農家番号17がそれぞれ3.1畝と2.1畝を借入れ、他方、非農家の農家番号74が7.8畝の所有地全てを貸出す地主で、また、9.1畝を経営する農家番号25と5.2畝を経営する農家番号162がそれぞれ6.2畝と5.2畝を貸出しているにすぎず、地主・小作関係はそれほど展開していなかった。

家族1人当たりの所有面積(カッコ内は家内労働力者数1人当たりの面積)は、20.1畝以上層が1.3畝(2.7畝)・10.1～20畝層が1.5畝(2.7畝)・5.1～10畝層が1.3畝(2.2畝)・5畝以下層が0.6畝(1.2畝)で、各層間の較差は20畝以下層の家内労働力数1人当たりでは約1.2～1.8倍だったが、家族1人当たりではほとんど較差がなく、5畝を境とする較差は2.1倍以上だった。他方、家族1人当たりの経営面積(カッコ内は家内労働力者数1人当たりの面積)は、20.1畝以上層が1.3畝(2.7畝)、10.1～20畝層が1.5畝(2.7畝)、5.1～10畝層が1.3畝(2.2畝)、5畝以下層が0.6畝(1.2畝)で、各層間の較差は5.1畝以上層の家内労働力数1人当たりでは較差は小さいが、5畝を境とする較差が約1.8倍あり、さらに、5.1畝以上層の家族1人当たりでは較差は小さいが、5畝を境とする較差が2.1倍以上だった。このことから、5.1～20畝層では、家族1人当たりと家内労働力者1人当たりの所有面積と経営面積に較差は少なかった。

非農家14戸を除く、雇農の戸数と人数は、2戸(7.0畝、1.7畝)2人が年工(300日、323日)として雇傭されていたが、3戸(14.3畝、10.4畝、6.5畝)が3人を年工(各300日)として雇傭していた。また、3戸(11.4畝、5.2畝、3.1畝)3人が月工(180日、183日、150日)として雇傭されていたが、1戸も月工を雇傭していなかった。さらに、105戸130人が日工(9,651日)として雇傭されていたが、13戸が13人の日工(243日)を雇傭していた。よって、非農家を含めて1、本村では年工4人分(1,179日)・月工4人分(633日)・日工123人分(9,918日)の労働力が村外へ流出した

ことになる。

雇傭農業労働者1人当たりの労働日数は、10.1～20畝層では年工が300日、日工が12日、5.1～10畝層では年工が323日、日工が12.8日、5畝以下層では日工が25.8日だったのに対して、被雇傭農業労働者1人当たりの労働日数は、非農家では年工が291.2日、月工が120日、日工が85日、10.1～20畝層では年工・月工はなく、日工が67.4日で、5.1～10畝層では年工が300日、月工が183日、日工が75.2日、5畝以下層では年工が323日、月工が150日、日工が77.6日だった。このことから、1人当たりの雇傭日数と日工の1人当たりの労働日数は経営面積が縮小するとともに増加していた。

16戸17人が本村外へ出稼ぎに出ており、経営面積別の出稼ぎ者数は、20.1畝以上層が1人、10.1～20畝層が3戸4人、5.1～10畝層が4戸4人、5畝以下層が5戸5人で、出稼ぎ先は、青島へ3人、駅前へ4人、黄旗堡へ1人、その他へ9人だった。

農業外収入として家賃収入を得ていたのは農家番号140(18.2畝、60元)・89(2.6畝、50元)・165(2.6畝、50元)の3戸にすぎず、脱農化はほとんど進行していなかった。

各農産物の作付面積が最も多い戸数の割合(他作物と同数の農家を含む)は、20.1畝以上層では小麦・大豆が100%・100%、10.1～20畝層では小麦・粟・落花生が97.6%・21.4%・2.3%、5.1～10畝層では小麦・粟・大豆・落花生・高粱・玉蜀黍・甘藷・緑豆が90.5%・33.6%・14.7%・5.2%・2.1%・2.1%・2.1%・1.0%、5畝以下層では小麦・大豆・粟・落花生・玉蜀黍・緑豆が79.1%・16.6%・14.5%・8.3%・4.1%・2.0%だった。このことから、上層ほど小麦を栽培する農家の割合が多く、農産物栽培農家の割合で小麦に次ぐのが大豆や粟だった。

大型家畜である牛・驢馬・騾馬の所有数(カッコ内は1戸当たりの所有数)は、20.1畝以上層では1頭(1頭)、10.1～20畝層では39頭(0.9頭)、5.1～10畝層では18.2頭(0.19頭)、5畝以下層では5.5頭(0.11頭)で、大型家畜の所有数と経営面積との間には正の相関関係が見られる。なお、1頭の牛を2戸で共有する農家(カッコ内は所有面積)は農家番号161・130(9.1畝・10.7畝)で、また、1頭の牛を3戸で共有する農家は農家番号11・12・15(全て6.7畝)で、全てが自作農だった。一方、1頭の驢馬を2戸で共有する

農家は農家番号35・94・95・24・64・73・146・147・65（3.9畝3戸・5.2畝・7.8畝2戸・8.0畝・9.1畝・9.6畝）の計9戸だったことから、2分の1頭の驢馬を所有する1戸が本村外にいたことになり、また、1頭の驢馬を3戸で共有する農家は農家番号99・100・105（5.2畝・7.2畝・7.8畝）で、さらに、1頭の騾馬を2戸で共有する農家番号33（11.7畝）以外のもう1戸は本村外にいたことになる。

また、鶏の所有数(カッコ内は1戸当たりの所有数)は、20.1畝以上層では2羽（2羽）、10.1～20畝層では36羽（0.8羽）、5.1～10畝層では68羽（0.7羽）、5畝以下層では20羽（0.4羽）で、1戸当たりの鶏の所有数では20畝を境としてやや大きな較差が見られる上に、

また、経営面積との間には正の相関関係が見られる。

一方、岨山荘では「親戚、近隣の畜力に比較的余裕のあるものより好意的に借入使用することが一般的に行はれ、かゝるものが全村を通じて約60戸（200戸中25戸）、総戸数の約13%の多きに達し」たが、「借入料の支払ひをなす雇傭蓄力」は「200戸中僅に2戸あつたのみ」だった。そして、「借用期間中の飼糧は借主に於て負担する外、貸主の多忙な時にその謝礼として手伝ひに行くことが一般的に行はれて居」た。また、「家畜の交換使用が盛で」、「全村を通じて55戸（200戸中23戸）、総戸数の12%にも及んで居」た（史料2, p.78）。

表2-6を見てみると、計32頭の役畜を交換・利用し

表2-6 岨山荘における役畜の使用を交換した32戸に関する状況.

Table 2-6 Families which borrowed draft animals in Zuoshanzhuang.

農家番号	経営面積 (所有面積)	役畜の種類 (延日数)	現金・現物・ 給飼の別	備 考
140	18.2(18.2)	驢馬(20日)	給飼	弟(農家番号14号)と交換
152	17.4(17.4)	騾馬(60日)	給飼	親戚(農家番号180号)と交換
54	13.0(13.0)	驢馬(15日)	給飼	叔父(農家番号55号)と交換
60	13.0(13.0)	牛(23日)	給飼	子(農家番号58号)と交換
170	13.0(13.0)	驢馬(30日)	給飼	農家番号169号と交換
188	13.0(13.0)	驢馬(20日)	給飼	弟(農家番号151号)と交換
150	12.4(12.4)	牛(20日)	給飼	祖父(王青春)と交換
33	11.7(11.7)	驢馬(9日)	給飼	隣家(王貴徳)と交換
39	11.7(11.7)	騾馬(6日)	給飼	親戚(王金良)と交換
57	11.7(11.7)	驢馬(25日)	給飼	兄(農家番号59号)と交換
148	11.7(11.7)	牛(25日)	給飼	弟(農家番号119号)と交換
180	11.7(11.7)	騾馬(60日)	給飼	親戚(農家番号152号)と交換
130	10.7(10.7)	驢馬(30日)	給飼	兄(王照年)と交換
38	10.5(10.5)	驢馬(18日)	給飼	臨家(農家番号1号)と交換
2	10.4(10.4)	騾馬(15日)	給飼	弟(王恩志)と交換
56	10.4(10.4)	牛(19日)	給飼	弟(農家番号161号)と交換
149	10.4(10.4)	驢馬(25日)	給飼	兄(農家番号148号)と交換
169	10.4(10.4)	驢馬(30日)	給飼	農家番号170号と交換
65	9.6(9.6)	騾馬(4日)	給飼	王洛廷と交換
151	9.1(9.1)	牛(15日)	給飼	兄(農家番号188号)と交換
161	9.1(9.1)	驢馬(38日)	給飼	兄(農家番号56号)に牛19日と交換
58	7.8(7.8)	驢馬(23日)	給飼	父(農家番号60号)と交換
64	7.8(7.8)	牛(8日)	給飼	友人(王仁利)と交換
73	7.8(7.8)	驢馬(3日)	給飼	王英芳と交換
143	7.8(7.8)	牛(10日)	給飼	兄(農家番号140号)と交換
1	6.5(6.5)	牛(1日)	給飼	農家番号38号と交換
55	6.2(6.2)	驢馬(5日)	給飼	伯父(農家番号54号)と交換
59	5.7(5.7)	驢馬(4日)	給飼	弟(農家番号57号)と交換
77	5.2(5.2)	驢馬(6日)	給飼	農家番号35号・36号と交換
40	4.4(4.4)	牛(4日)	給飼	兄(王応森)と交換
35	3.9(3.9)	驢馬(2日)	給飼	親戚(農家番号77号)と交換
36	2.6(2.6)	驢馬(1日)	給飼	親戚(農家番号77号)と交換

典拠) 表2-1に同じ。

ていた32戸は、驢馬が19頭と最も多く、これに9頭の牛と5頭の騾馬が次いでおり、32戸の全てがその交換条件として飼料を手当てしていた。また、23戸が兄弟・親子や親戚との間で交換していた。さらに、役畜の使用日数は、60日が2戸、38日が1戸、30日が3戸、25日が3戸、23日が2戸、20日が3戸、20日未満が18戸だった。このことから、役畜の交換・利用は血縁的關係を中心として必要最低限の日数で相互扶助

的に行われていたと言える。

表2-7を見てみると、役畜の使用・借用に関わって雇傭関係があった6戸は所有面積が3.9～5.2畝にすぎず、全戸が役畜の使用に対して飼料を手当てしている以外に、5戸までが1戸当たり2～6元の現金を支払っている。また、役畜の使用日数は、20日が最多で、1戸当たり平均約7日にすぎなかった。

表2-8を見てみると、役畜を借用していた32戸のう

表2-7 岫山荘における役畜の使用をめぐって雇傭関係のあった6戸に関する状況.

Table 2-7 Families which rented draft animals in Zuoshanzhuang.

	経営面積(所有面積)	役畜の種類(延日数)	現金・現物・給飼の別	備考
49	5.2(5.2)	牛・驢馬(各1日)	給飼, 2元	村外親戚より雇傭
160	5.2(5.2)	驢馬(5日)	給飼, 2元	村内より雇傭
30	5.2(5.2)	牛・驢馬(各3日)	給飼, 6元	村内(王賜禄)より雇傭
92	4.6(4.6)	驢馬(1日)	給飼, 2元	村内農家より雇傭
87	3.9(3.9)	驢馬(20日)	給飼, 蔬菜若干	農家番号195号より雇傭
182	3.9(3.9)	騾馬(10日)	給飼, 5元	農家番号170号より雇傭

典拠) 表2-1に同じ。

表2-8 岫山荘における役畜を借用した32戸の借用条件.

Table 2-8 Borrowing condition of draft animals in Zuoshanzhuang.

農家番号	経営面積(所有面積)	役畜の種類(延日数)	現金・現物・給飼の別	備考
5	11.1(11.1)	牛(7日)	給飼	王分生より無料借用
153	9.1(9.1)	牛(5日)	給飼	王金樂より借用
146	8.0(8.0)	驢馬(5日)	給飼	妻の里方(州成宜)より借用
3	7.8(7.8)	牛(2日)	給飼	臨家より借用
4	7.8(7.8)	驢馬(4日)	給飼	村外親戚より無料借用
22	7.8(7.8)	騾馬(5日)	給飼	親戚(王中富)より無料借用
23	7.8(7.8)	牛(6日)	給飼	村外親戚より無料借用
90	7.8(7.8)	驢馬(8日)	給飼	農家番号1号より男5日労力提供条件にて借用
117	7.8(7.8)	牛(15日)	給飼	叔父(王錫同)より無料借用
132	7.8(7.8)	牛・驢馬(各2日)	給飼, 1.5元	村外親戚より牛・驢馬1日宛無料借用, 王照庭より雇傭
134	7.8(7.8)	驢馬(8日)	給飼	叔父・伯父(王貴良・王貴等)より無料借用
154	7.8(7.8)	驢馬(10日)	給飼	祖父(王金騰)より無料借用
20	6.5(6.5)	驢馬(5日)	給飼	親戚(農家番号195号)より無料借用
98	6.5(6.5)	牛(6日)	給飼	親戚(王貴賜)より無料借用
166	6.5(6.5)	驢馬(2日)	給飼	農家番号187号より男1人10日間労力提供条件にて借用
44	5.7(5.7)	驢馬(4日)	給飼	兄(農家番号176号)より無料借用
126	5.2(5.2)	驢馬(5日)	給飼	王世珍より男1人10日間労力提供条件にて借用
128	5.2(5.2)	驢馬(4日)	給飼	王世博より男1人10日間労力提供条件にて借用
139	5.2(5.2)	牛・驢馬(各2日)	給飼	親戚(農家番号194号)より無料借用
162	5.2(5.2)	牛・驢馬(各1日)	給飼	兄より無料借用
125	4.6(4.6)	驢馬(10日)	給飼	村内より無料借用
155	4.6(4.6)	驢馬(19日)	給飼	親戚(王楽田)より無料借用
178	4.6(4.6)	驢馬(1日)	給飼	農家番号51号より1日間労力提供の約束にて借用
41	3.9(3.9)	驢馬(2日)	給飼	兄(農家番号57号)より無料借用
76	3.9(3.9)	驢馬(1日)	給飼	農家番号77号より1日間労力提供の約束にて借用
34	3.1(3.1)	驢馬(4日)	給飼, 0.8元	弟(農家番号69号)より借用
165	2.6(2.6)	騾馬(6日)	給飼	農家番号86号より無料借用
42	2.6(2.6)	驢馬(1日)	給飼	王金蓋より無料借用
142	2.0(2.0)	驢馬(1日)	給飼	兄より借用
45	1.0(1.0)	驢馬(1日)	給飼	農家番号56号より無料借用
47	1.0(1.0)	驢馬(2日)	給飼	農家番号56号より無料借用
93	1.0(1.0)	驢馬(1日)	給飼	借用先不明

典拠) 表2-1に同じ。

ち20戸までが無料借用で、しかも、この20戸のうち14戸が兄弟や親戚からの無料借用で、32戸のうち労働力の提供を条件とする借用は6戸にすぎなかった。また、役畜の借用に対して各戸が飼料を手当てしている以外に、2戸がわずかな現金（1.5元と0.8元）を支払っている。さらに、役畜の使用日数は19日が最多だったが、戸数が最多だったのは1日と4日の各6戸で、1戸当たり平均5日で、経営面積が少ないほど役畜の使用日数も少ない。

以上のように、役畜を交換利用していた32戸の経営面積が18.2畝以下だったのに対して、役畜を借用していた32戸の経営面積が11.1畝以下だった。このことから、前者は後者より1戸当たりの経営規模が大きく、役畜の使用・借用に関わって雇傭関係が生じていた6戸の経営面積は5.2畝以下だった。そして、役畜の交換・借用の状況から見ると、血族共同体的な意識が濃厚で、商品経済の展開は相対的に緩慢だった。

IV. 南権府荘と岫山荘の比較

南権府荘と岫山荘では、総戸数が222戸と478戸、人口が1,047人と2,492人で、前者は後者の半分以下だったが、1戸当たりの人数は4.7人と5.2人で、それほど大きな差はなかった。非農家の割合は46.8%と7%で、前者の脱農化の進行程度が際立っている。

以下に、両村の経営面積別（20.1畝以上層、10.1～20畝層、5.1～10畝層、5畝以下層）における家族の人数・戸数の割合・農業外就労者の状況を比較しておきたい。

1戸当たりの家族の人数（カッコ内は家内労働力数）は、11人（5.6人）と16人（8人）、8.4人（4.8人）と7.0人（3.9人）、5.9人（3.4人）と5.0人（2.9人）、4.4人（2.7人）と4.2人（2.3人）で、両村ともに1戸当たりの家族の人数及び家内労働力数と経営面積との間には正の相関関係が見られるが、20.1畝以上層を除くと、1戸当たりの家族の人数及び家内労働力数では南権府荘が岫山荘を上回っていた。

戸数の割合は、5.0%と0.5%、22.0%と22.5%、32.2%と51.0%、40.6%と25.8%で、南権府荘は岫山荘よりも経営面積の較差が拡大し、農業経営の両極分解が進行するとともに、零細農化もより一層進行していた。

地主兼自作農を含む自作農の割合は、83.3%と100%、42.3%と97.6%、55.2%と98.9%、72.9%と100%で、岫山荘は南権府荘よりも自作農率が高かった。

一方、小作農ないし小作農を兼ねる農家1戸当たりの借入地面積の経営面積に占める割合すなわち小作地率は、全体では31.6%と0.004%で、自作農率が高かった岫山荘に対して、南権府荘は5.1～10畝層を最高として平均小作地率が3割を超えていた。

ところが、地主を兼ねる農家1戸当たりの貸出地面積は、0畝と0畝、27.3畝と0畝、0畝と0.12畝、3.9畝と0畝で、南権府荘の10.1～20畝層を除くと、両村ともに村内に地主的土地所有はそれほど多くはなかった。

よって、南権府荘では、同村内に地主的土地所有があっただけでなく、同村の土地所有権が済南市や天津市へ流出して（図1）小作地率が高くなっていた。

1人当たりの所有面積・経営面積（カッコ内は家内労働力1人当たりの面積、[]内は雇傭した年工を含む労働力1人当たりの面積）は、2.2畝・2.5畝（4.3畝・4.9畝 [4.5畝]）と1.3畝・1.3畝（2.7畝・2.7畝）、1.1畝・1.6畝（2.0畝・2.8畝 [2.7畝]）と1.5畝・1.5畝（2.7畝・2.7畝）、0.6畝・1.0畝（1.0畝・1.8畝 [1.8畝]）と1.3畝・1.3畝（2.2畝・2.2畝 [2.2畝]）、0.4畝・0.5畝（0.7畝・0.8畝）と0.6畝・0.6畝（1.2畝・1.2畝）だった。

すなわち、南権府荘では所有面積・経営面積ともに下層になるほど縮小しているのに対して、岫山荘では5畝を境として較差が最も大きかった。この点は、家内労働力1人当たりの面積を見ると、より一層顕著である。また、労働力1人当たりの所有面積・経営面積ともに、20.1畝以上層では南権府荘が岫山荘を上回っていたのに対して、10畝以下層では岫山荘が南権府荘を上回っていた。

このことから、改めて岫山荘に比べて南権府荘では農業経営の両極分解が進行しており、とりわけ10畝以下層では脱農化もより一層進行していることがわかる。

雇農の雇傭数は、地主と非農家では両村ともに0人、20.1畝以上層では年工3人・日工10人と0人、10.1～20畝層では年工4人・日工7人と年工2人・日工2人、5.1～10畝層では年工1人・日工8人と年工1人・日工5人、5畝以下層では日工6人と日工6人だった。一方、雇農の被雇傭数は、地主が月工2人・日工1人と0人、

非農家では年工5人・月工3人・日工40人と年工5人・月工1人・日工6人, 20.1畝以上層ではともに0人, 10.1~20畝層では年工1人・日工15人と月工1人・日工27人, 5.1~10畝層では日工18人と年工1人・月工1人・日工68人, 5畝以下層では年工1人・日工32人と年工1人・月工1人・日工35人だった。合計すると, 年工7人・月工5人・日工106人と年工7人・月工4人・日工136人となる。このことから, 南樞府荘には年工1人分の労働力が村外から流入し, 農業労働力の村外への流出は月工5人分・日工78人分と年工4人分・月工4人分・日工123人分となり, 南樞府荘では出稼ぎ20人・苦力10人, また, 岳山荘では出稼ぎ19人いた。しかも, 農業労働者として雇われている戸数の割合は岳山荘が南樞府荘よりも高く, また, 岳山荘の総人口数と総戸数が南樞府荘の約2.5倍と2倍余りだったことからすると, 南樞府荘に比べて脱農化の進行程度が緩慢だった岳山荘は農業外就労機会も明らかに少なかったことがわかる。

各農産物の作付面積が最多の戸数割合(他作物と同数の農家を含む)は, 20.1畝以上層では小麦(66.6%)・早粟(16.6%)・豆類(16.6%)と小麦(100%)・大豆(100%), 10.1~20畝層では小麦80.7%・晚粟26.9%・豆類(7.6%)・早粟(3.8%)と小麦97.6%・粟21.4%・落花生2.3%, 5.1~10畝層では小麦92.1%・晚粟47.3%・早粟5.2%・玉蜀黍2.6%・豆類2.6%と小麦90.5%・粟33.6%・落花生5.2%・高粱2.1%・玉蜀黍2.1%・甘藷2.1%・緑豆1.0%, 5畝以下層では小麦95.8%・晚粟72.9%・豆類10.4%・早粟2.0%と小麦79.1%・大豆16.6%・粟14.5%・落花生8.3%・玉蜀黍4.1%・緑豆2.0%で, 作付面積が最多の戸数割合は, 10.1畝以上層では南樞府荘が岳山荘を上回っていたが, 10畝以下層では岳山荘が南樞府荘を上回っていた。

このように, 南樞府荘は下層ほど自給用の穀物(小麦, 粟)生産に特化しているのに対して, 岳山荘は上層ほど穀物生産に特化していた。すなわち, 農業外就労機会が多い都市近郊農村である南樞府荘では, 自給用の穀物の作付を重視していたが, 脱農化が進行している下層ほど食糧穀物の生産に特化する傾向が見られる。これに対して, 農業外就労機会が相対的に少ない周辺農村である岳山荘では, 上層は自給用の食糧穀物を生産することが可能であるが, 下層ほどその自給生産が困難となり, 落花生を栽培・販

売して食糧を購入する必要に迫られていた。

農業外就労者数は, 110人(行商45人, 出稼ぎ20人, 会社員10人, その他35人)と24人(出稼ぎ17人, その他7人)だった。その詳細は, 地主及び非農家では会社員4人・出稼ぎ9人・牧師1人・「苦力」8人・理髪店2人・行商32人・人力車夫3人・茶館4戸・職人4人・乞食4人と出稼ぎ3人・万頭製造1人・乞食3人, 20.1畝以上層では0人と出稼ぎ1人, 10.1~20畝層では左官1人と出稼ぎ4人・家賃収入1戸, 5.1~10畝層では会社員3人・出稼ぎ3人・左官1人・「大工」(家具・木工職人の「木工」の誤り)2人・苦力1人・行商1人と出稼ぎ4人, 5畝以下層では会社員3人・行商12人・出稼ぎ8人・雑貨商2人・「飯館」(レストラン兼旅館)1戸・左官1人と出稼ぎ5人・家賃収入1戸だった。やはり, 岳山荘の総戸数が南樞府荘の2倍余りだったことからすると, 岳山荘の農業外就労者数の割合が非常に少なく, 脱農化の進行が非常に緩慢だったことがわかる。

V. おわりに

階層別の戸数割合, 地主・小作農関係の展開, 小作農率・自作農率, 家内労働力1人当たりの所有面積・経営面積, 農業労働者(雇農)数・農業労働力の村外流出状況, 役畜の借用状況, 農産物の作付状況, 農業外就労の職種などから, 南樞府荘は岳山荘よりも零細農化と脱農化が進行していたことは明らかである。

そして, 山東省内の高家楼村・西韓哥荘・孫家廟荘を加えた5ヶ村の農村経済展開水準を比較してみると, ①都市近郊農村(青島市西韓哥荘, 済南市南樞府荘), ②県城近郊農村(惠民県孫家廟荘, 濰県高家楼村), ③周辺農村(岳山荘)という序列化が成り立つと考えられる。

都市近郊農村の西韓哥荘と南樞府荘では, その他の3ヶ村に比べて農業外就労機会が拡大しているが, 抵当権の設定や地主・小作などの土地関係から見ると, 済南市は青島市よりも農村との関係が深い。すなわち, 済南市街地には近郊農村に小作地や入典地を持つ者が多数居住していた。また, 南樞府荘では非農家の多くが雇農として農業労働に従事していた。よって, 5ヶ村のうち西韓哥荘は, 農村経済の発展水準が最も高く, 脱農化・都市化が最も進行していた

と言える。

そして、逆に、上記5ヶ村のうち最も後発的な経済状況にあった周辺農村である岳山荘でさえも、自給自足の閉鎖的な経済状況にはとどまっておらず、さらに、村境を越えて家畜が共有されており、農業労働力の移動（村外への流出）も見られた。

注

- ¹⁾ ちなみに、1939年1月以降に本村に移住してきたのは、農家番号32・71・131・132・133・153・175・184・186・200・224・228の計12戸である。

史料

- ¹⁾ 華北交通株式会社総裁室資業局，1940：鉄路愛護村実態調査報告書 膠濟線黄台愛護区（済南市近郊）南権府荘，華北交通調・1第1号，176p.
- ²⁾ 華北交通株式会社総裁室資業局，1940：鉄路愛護村実態調査報告書 膠濟線岳山愛護区（安邱県）岳山荘，華北交通調・1第2号，145p.

文献

弁納才一，2013：中華民国前期冀東地区における農村経済

の概況．金沢大学経済論集，34 (1)，59-86.

弁納才一，2014a：中華民国冀東地区6県7ヶ村における農村経済．金沢大学経済論集，34 (2)，53-87.

弁納才一，2014b：日中戦争期河北省石家庄地区農村における経済発展．早稲田大学東洋史懇話会，史滴，36，188-212.

弁納才一，2015a：近現代北京市近郊農村における経済発展と都市化．大阪経済大学日本経済史研究所，経済史研究，18，63-90.

弁納才一，2015b：中華民国前期河北省玉田県7ヶ村における農村経済．金沢大学経済論集，35 (2)，5-35.

弁納才一，2016：中華民国前期冀東地区豊潤県3ヶ村における経済発展．金沢大学経済論集，36 (2)，45-74.

弁納才一，2018：日中全面戦争勃発前後における中国山東省農村経済の変動－惠民県孫家廟荘を例として．日本海域研究，49，49-65.

弁納才一，2019：日中戦争時期における山東省3ヶ村の経済発展に関する分析．日本海域研究，50，7-24.

補記：本稿は、科学研究費助成事業（基盤研究（B）（一般）2018年度～2022年度「社会主義経済体制下の中国農村における社会環境の特質と変容に関する再検討」研究代表者：弁納才一，課題番号18H00876）による研究成果の一部である。